

めんごい



山形市社会福祉協議会、避難者生活支援相談員です。いつもお世話になっております。

☆今回のラインナップ☆

特集…東日本大震災 追悼・復興祈念事業 キャンドルナイト「復興への祈り」

交流…懐かしい！お手玉、一緒にしませんか？

東日本大震災 追悼・復興祈念事業 キャンドルナイト「復興への祈り」

平成25年3月11日（月）文翔館前広場で行われたキャンドルナイトに参加させていただきました。

その中で、相談員の水戸百合恵が「復興への祈り」を読みました。

参加できなかった方にも一読していただきたいと思い、文章をそのまま載せました。ご覧下さい。

私たちの生活が一変した東日本大震災から二年が経ちました。二年という時の長さを思うとき、時間と対比して現実とのギャップに愕然としています。被災地の復興は遅々として進まず、当たり前の生活を奪われた多くの人たちは、未だ自らの行く末を決められず彷徨っている状態です。

山形県には東日本大震災による避難者が約一万人います。津波で家を失った人、原子力発電所の事故による放射性物質の汚染でやむなく家を出て戻れない人、放射線が子供に与える影響が心配で自主的に避難している人など、それぞれに状況は異なっても、故郷を離れ、慣れない土地で暮らす不安と、いつ収束するか分からないもどかしい現実に関塞感と怒りを覚える気持ちは共通していると思います。山形県の皆様には、こうした事情を理解していただき、他県から来たわたしたち避難者へ暖かい支援と励ましを頂いております。

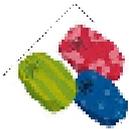
感謝の気持ちでいっぱいです。

私の住んでいた相馬市では、予想をはるかに超えた津波で479人の命が失われました。わたしの家も一瞬でがれきと化し、その日から、暖房も無い寒い避難所での生活となりました。今でも思い出すのは、行方が分からない家族を探して避難所を巡り、どうしても家族に会えずにいた人たちのことです。探す場所を避難所から遺体安置所に変え、家族の死を初めて知った多くの遺族たちの涙が忘れられません。宮城県に嫁いだ私の妹も毎日遺体安置所に出かけ、連絡の取れない夫を探していました。たくさんの傷ついた遺体の中から夫を探すのは辛かったと思います。無残な姿の遺体が夫だと確認できた決め手となったのは、ポケットに入れていた携帯電話でした。そして、プールほどもある大きな大きな穴に、たくさんの死者が一度に埋葬されました。妹は未だに精神的に不安定で、心の傷を癒すことが出来ずにいます。復興が進まない焦りから、うつになり通院している友人もいます。まだまだ先が見えません。

本日のキャンドルナイト、このろうそくの火が、改めて私たちの心に復興への明かりを灯し、誰もが辛い経験を乗り越え、少しでも明るい未来へ近づけるように祈っています。震災で亡くなった命、まだ行方の分からない方々、私たちはいつまでも忘れることはありません。

どうか一人一人の祈りが強い力となり、一日も早い復興が成し遂げられるのを願いますと共に、亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、追悼の言葉といたします。

（平成25年3月11日 文翔館にて）



懐かしい…お手玉、一緒にしませんか？



手作りのお手玉を持って福島県富岡町から避難されているお宅を訪問しました。

あはは！

昔は、家に小豆が
なかったから
生地に石を入れて
お手玉をしていたら
手が痛くて…



うまい！



結構良い運動
になりますね！
汗かきますね！！

この遊び方は
知りませんでした！

一度に全部
お手玉をとるのは
難しいんだよ～！！



学校の休み時間に
夢中になってお手玉をして遊んだのよ。
久しぶりで懐かしいなあ～



出来な～い
難しいですね

1個取って、2個取って…

お手玉は
奥深いですね

昔、馴染んだことはちゃんと
体が覚えているんですね。
見事なお手玉の腕前に思わず「うまいっ！」
遊び方も色々で、伝授していただきました。



がんばって～！

編集後記

知恵を絞り、イベントを企画していますが、ご年配の方の交流会がなかなか実現せず悩んでいました。そんな時、ふとひらめいたのが「お手玉」。たくさんの方が集まるのが、難しいのならば相談員とミニ交流会ができないかと思い、一緒にお手玉をしました。少し手を動かしただけでも良い運動ですね。みなさんも、一緒にお手玉しませんか？お手玉持って伺いますよ。いつでも、ご連絡下さい。

～お気軽にご連絡ください～

連絡先

山形市城西町二丁目 2-22 山形市総合福祉センター2階 山形市社会福祉協議会
電話：645-8061（平日 8:30～17:30）福祉のまちづくり係（結城英彰・佐藤貴司）
メール：h.yuuki@yamagatashishakyo.or.jp